

# ふくし

題字/白藤金友 井野吟江氏

第78号

平成26年7月15日

へーそうなんだ

うちは  
どうだろう？

テレビなど  
昔のあふれる生活ではなく、  
声を音としてとらえる生活で  
人の話を聞けるように  
なります。

## “園長の子育て談話”

高浜市いちごプラザ（沢渡町三丁目）では、4月より未就園児の保護者向けの子育て相談「園長先生のお話」を開催しています。

「大人のペースではなく、子どものペースに合わせた子育ての大切さを伝えたい。」と高浜市社会福祉協議会中央保育園松井園長。詳しくは、P.11にて

# 地域と密着した活動を推進するため、 より一層のご協力をお願いします。



高浜市社会福祉協議会  
会長  
**岸本 和行**

本年6月より高浜市社会福祉協議会の会長に再度就任することとなりました。前期の2年間は、超少子高齢化社会の到来が進む中、市から移管を受けた中央保育園の開園に邁進してまいりました。当社会福祉協議会としては、南部保育園に続き運営することとなりました。いずれの園も社会福祉協議会らしさを出し、お子様方の成長をしっかりと育むよう職員一丸となって進んでまいりたいと思っています。

さて、超高齢化社会に突入している現在、地域福祉の取り組みをしっかりと実施しなくてはならない状況となっています。平成37年には75歳以上の後期高齢者は2000万人になると言われています。また、認知症高齢者の割合も65歳以上で470万人にも上るともいわれ、要介護等の認定を受けていない人を含めるとそれ以上の数にもなっています。こうした待たなしの状況を鑑みれば、社会福祉協議会としての事業活動がますます重要となります。そこで本年度は、地域共生型の福祉施策の実現に向けて取り組んでまいります。民間事業者としての発想や強みを活かし、地域と密着した支援体制を今以上に深化させて事業を進めたいと考えています。

最後に、これまでの社会福祉協議会の活動をさらに前進させられるように精一杯努力をしてまいりたいと思いますので、市民各位のご支援を賜りますようお願い申しあげまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

## 社会福祉法人高浜市社会福祉協議会 役員紹介

社会福祉協議会は、社会福祉を目的とする事業を経営する者、社会福祉事業又は更生保護事業を営業者、社会福祉に関する活動を行う者から構成された、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体です。

このたび、平成26年5月20日の評議員会で新たな役員が選任されました。任期は平成26年6月1日から2年間です。

### 理事 (15名)

会長	岸本 和行	副会長	高桑 雄司
	深谷 幸男 (高浜市民生・児童委員協議会)		伊藤八千子 (高浜市母子福祉会)
	山本 貞夫 (高浜市身体障害者福祉協会)		板倉小枝子 (高浜市赤十字奉仕団)
	杉浦 勝利 (NPOたかはま)		杉浦 修機 (高浜ロータリークラブ)
	内藤 松宏 (高浜ライオンズクラブ)		中村 範親
	村木 寛茂 (医療法人碧会老人保健施設こもれびの里・高浜)		(社会福祉法人昭徳会特別養護老人ホーム高浜安立荘)
	神谷久美子 (高浜市教育委員会)		高橋 則栄 (町内会・行政連絡会)
常務理事	長谷川宜史 (社会福祉法人高浜市社会福祉協議会)		神谷美百合 (高浜市役所福祉部)

### 監事 (2名)

吉田 利美

榊原 純一

平成25年度

# 事業報告

本会の使命である『かけがえのない一人ひとりを大切に、助けあい、支えあいの心を地域に広げます。そして、だれもが幸せで笑顔あふれるまち「たかはま」を目指します。』を果たすため、以下の事業に取り組んでまいりました。

## 1 高浜版地域包括ケアの推進

福祉のワンストップサービスを提供する高浜市いきいき広場において構築を進める「たかはま版地域福祉包括ケアシステム」との連携を図り、本会で実施している子ども、障がい者、高齢者などに対する、さまざまな支援事業を活かし、高浜版地域包括ケア推進の一助となれるよう、事業展開に努めてまいりました。

## 2 「安心生活応援プラン事業」を中心とした地域福祉の推進

小学校区に配置しているコミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、民生児童委員と、地域の皆さんとで支援を必要とする方の状況把握に取り組んでまいりました。

困りごとを支える「お互いさま」の関係づくりを進める中で、新たに地元商店や町内会、まちづくり協議会と協働して、高齢者等への買い物支援を通じた顔の見えるコミュニケーションの場として「青空市」（会場高浜南部保育園）を継続して開催しています。

また、安心して地域で暮らし続けるために、権利擁護推進センターの設置に向けて高浜市と共同して検討を行いました。

## 3 新たなボランティア活動の推進

市内で活動されているボランティア活動のさらなる推進を図るため、ボランティアひろばセンター“てとて”への登録促進と各種団体で実施されている講座、行事などに積極的に足を運び、情報収集に努めました。

また、「井戸端会議」を継続して開催することで、ボランティア活動者同士やボランティア団体同士が気軽に情報共有できる機会と場所の提供を実施しました。

## 4 子育て支援事業の推進

「子育て・家族支援ネットワーク事業」では、育児不安や孤立感を軽減するための講座を開催したり、行事や講座などの情報提供を行い、子育て支援センター、こども発達センター、心身障害児福祉施設みどり学園との連携を図り、地域の子育て家庭への支援など、子育ての負担感を軽減しつつ、安心して子育てができる環境整備に努めました。

また、平成25年度から高浜市より移管を受けた中央保育園、中央児童センター、中央児童クラブについては、高浜南部保育園で培った、子育て支援の実績を最大限に行かし円滑な事業運営に努めました。

## 5 障がい者の地域生活支援

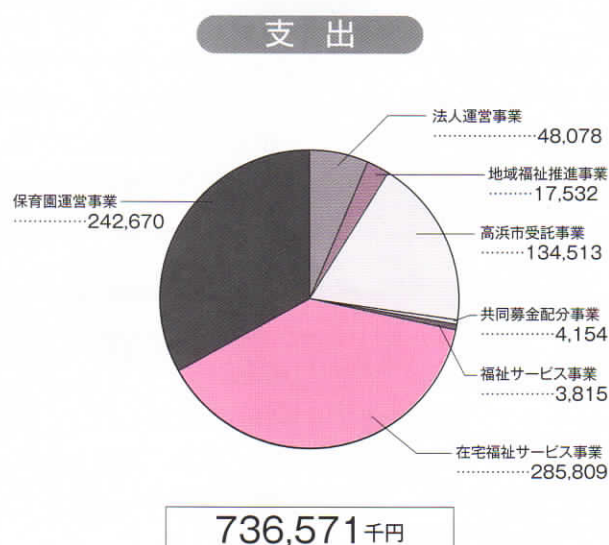
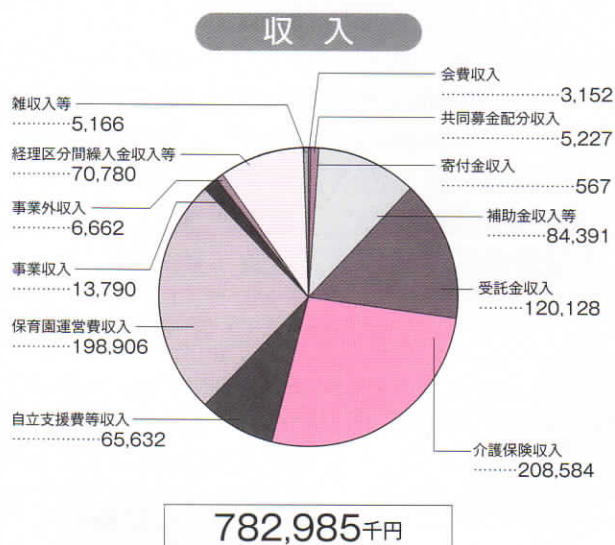
障害者相談支援事業を、高浜市から全面的に受託したことにより、障害福祉サービスの利用にあたり「働く」と「生活する」を視野に入れ、相談・利用計画作成など、障がいのある人の「働く」と「生活する」を一体的に支援することに努めました。

## 6 高齢者への在宅福祉サービスの充実

在宅福祉サービスの要となる介護保険サービスを中心にサービスの充実に努めました。なかでも、定期巡回・随時対応型訪問介護事業の開始により、在宅でも施設と同様に「必要な時に必要なケア」を提供し、訪問看護との連携により医療面の充実を図るため、刈谷豊田総合病院高浜分院訪問看護事業所と体制づくりを行いました。

また、高齢化に伴い在宅で生活することが難しい認知症高齢者の急激な増加が見込まれるなかで、認知症になってもできる限り住み慣れた地域で在宅と同じように暮らせるよう、地域共生型のグループホームの開所に向けて検討をしてみいました。

### 平成25年度 一般会計決算



# 「安心生活応援プラン事業」を 中心とした地域福祉の推進

## 青空市の取り組み

### 青空市はどうして始まったの？

高齢者世帯や障がい者世帯では、日常生活で支援を必要とする場面が多くあります。しかし、最近では、高齢化や核家族化が進み、家族だけでは支援することが難しくなっています。

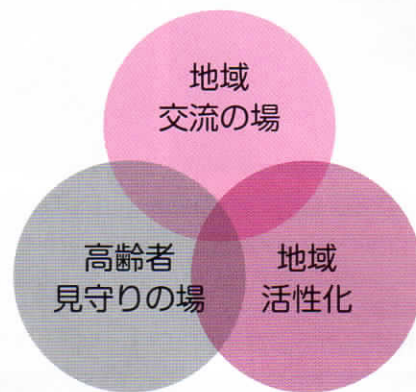
高浜市と高浜市社会福祉協議会が取り組む「安心生活応援プラン」は、「見守り」や「買い物支援」等のサービスを必要とする方が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるように、地域の皆さんと一緒に支えていけるようにする取り組みです。

青空市の開催は、高浜市の独居高齢者調査でも上位に上がる「車に乗らなくなってから、買い物に困っている」という声から始まりました。

現在、ショッピングセンターの進出など、時代背景もあり、地域から「お店屋さん」がなくなりつつあります。「お店屋さん」は、生活するうえで必要なものを得るだけでなく、雑談などから生活に必要な情報を得るとともに、地域の人たちの安否を確認しあう場として、暮らしのなかでなくてはならない生活の一部として大切にされてきました。地域から「お店屋さん」がなくなることは、単に高齢者の困りごとが増えるだけでなく、地域にとって生活の一部である、コミュニケーションの場が失われるという大きな課題があります。

そこで、「地域の課題は地域で解決しよう」と高浜南部まちづくり協議会が声を上げ、地域の「お店屋さん」からの協力も得て、「青空市」がスタートしました。

「青空市」は、平成25年11月10日から年末年始も休むことなく開催し、33回目（平成26年6月29日現在）を迎えました。



### 社協職員が青空市で見つけたつながり

青空市を毎週日曜日に開催していると、この青空市を通して顔見知りが増えてきたと感じます。

お客さんの中にはランドゴルフの帰りに寄られる方や、毎回おなじみの友達と待ち合わせてみえる方もいます。

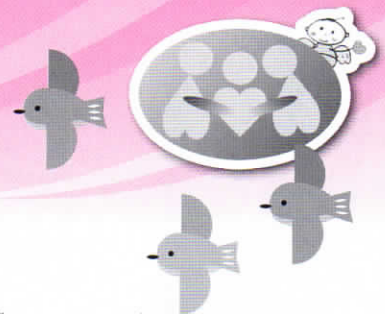
「車がないから、ここでお米を販売してくれると助かるな」という商店とお客様のやりとり、「あそこのAさん最近どこでも見かけんけど、青空市でも見かけんね。」「なにかあったかね。」というお客さん同士のやりとりがあちらこちらで、聞こえます。

「青空市」は、毎週休まず開催することで、田戸町をはじめとする港小学校区の、生活の一部になりつつあると感じます。この、「青空市」をきっかけとした、声の掛け合い、コミュニケーションの広がり、安心して暮らし続けられる地域づくりの取り組みの一つではないでしょうか。

このような場作りが、今後市内に増えていくよう、地域福祉推進の取り組みを進めていきたいと思えます。

**7月6日(日)から時間が変わります!(7月~11月まで)**  
**毎週日曜日午前9時~午前11時 / 高浜南部保育園 園庭**

# てとてとて



市内5ヶ所にある「宅老所」は、地域の介護予防の拠点として、利用している方と地域のボランティアが、楽しみながら交流することで、介護予防を進めています。

今回は、宅老所で好評のレクリエーションをご紹介します！

宅老所では、お友達同士や趣味のグループなどで、趣味や特技を披露していただける方を募集中です。これから活動をはじめてみたい方には、左ページの講座もオススメです。

## ● 大型紙芝居、わらべ歌、手遊び



### 5月28日(水) じい&ばあ「土ようおはなし会」

「茶つみ」の歌では、「昔は「あかねだすきにすげのかさ」の歌のとおり格好で、西尾の茶摘の仕事に高浜からもたくさん行ってたんだよ」という利用者さんからのお話も聞かれ、昔話に花が咲きました。

## ● ウクレレ演奏、フラダンスの披露

### 5月15日(木) 悠遊たかとり「ウクレレ同好会」

ハワイのリゾート気分を味わってみたいとボランティアさん。ハワイアン雰囲気にもまれ、「アンコール！」の声もかかり大盛り上がりでした！



## ● 本の朗読、紙芝居

### 5月16日(金) いっぶく「トキの会」



『蜘蛛の糸』の朗読や動く絵本、「一休さん」や『愛染かつら』などの大人向けの紙芝居も披露されました。

## ● 実習生からみた宅老所 ～訪問して思ったこと・感じたこと～

宅老所は、高齢者が外に出るきっかけ、目的になっていると感じました。社会福祉協議会が運営していることで、地域の人がつながって、地域の高齢者を支えている、地域の居場所になっていました。また、宅老所は、地域にもとからあった施設を有効利用しているところも、親しみがもてました。宅老所を拠点に、たくさんのボランティアの方が宅老所とつながっていて、ここでも「住民が中心」であると感じました。



日本福祉大学 健康科学部  
4年 宮城嶋彩さん

## ボランティア活動で元気をもらっています

### ● 地域のイベントボランティアで活躍 ～春の鬼みちまつりボランティア(4月27日)～

高浜市の文化・産業に触れる「鬼みちまつり」。毎年春と秋に開催され、市内外から多くのお客さんが来場されます。

「春の鬼みちまつり」に来場されるお客さんを気持ちよくお迎えするため、高浜市観光協会よりボランティアの依頼がありました。いきいき健康マイレージ福祉ボランティアや、個人ボランティアなど16名が、会場内のすみずみのゴミ拾いに活躍しました。

イベントボランティアの活動は、イベントを楽しみながら気軽に参加でき、休日の活動が多いので、社会人でもはじめやすいボランティアです。

また、ボランティアとして参加するイベントは、地域を深く知るきっかけにもなります。

現在、ボランティアセンターでは、夏にピッタリのイベントボランティアをご案内中です。お気軽にご参加ください。



高浜市社会福祉協議会 ボランティアひろばセンターてとてとて

電話：52-9882 FAX：52-4100 メール：tetotetote@takahama-shakyo.or.jp

【講座の申込やその他お問合せもこちらまでお願いします】

★ホームページ「かりや衣浦つながるねっト」  
(衣浦定住自立圏市民活動情報サイト)にて  
ボランティア募集やイベント情報を随時更新中！  
<http://tsunagaru.genki365.net/>